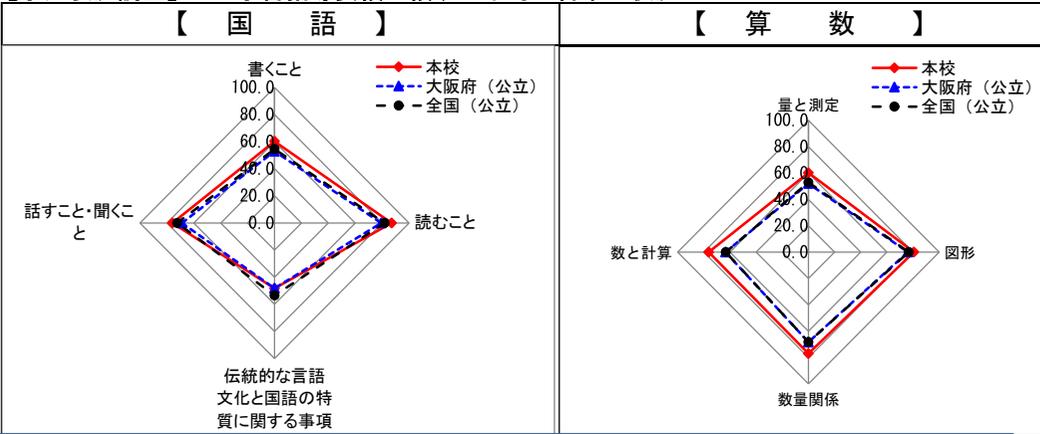


調査実施要領にありますように、本調査結果は、学力や学習状況の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面ではありますが、学校として以下の結果について真摯に受け止め、子どもたちの学力並びに学習意欲の向上に努めてまいります。保護者のみなさんのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

【学力状況調査】 <学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



に必要」。(2)「110番や119番への通報は硬貨やテレホンカードがなくてもできる」「停電の時でも、硬貨を使って使用することができる」等です。問題は(1)と(2)の両方から言葉や文を取り上げて書いて報告文にするというもので、自分の考えに応じて40字以上、70字以下にまとめます。この問題の正答率が府や全国を下回っています。他にも同様の問題がありますが、必要な情報から自分の考えをまとめる「記述式」には課題がみられました。

**成果**  
「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」は、府、全国を上回っています。「選択式」の問題では力を発揮できています。例えば、同じ公衆電話の問題で、高橋さんが、公衆電話の使い方や特徴を工夫して書いている文の説明で、「1情報を整理して伝えるために、ことがらを分けて並べて書いている。」という文を選択肢の中から選ぶ問題は府や全国の上回っています。

**課題解決に向けた取組み**  
本文から言葉や文を取り上げて書いたり、ふさわしい言葉づかいで書いたり、まとめて書くような活動を取り入れていきます。また、漢字の読み書きだけでなく、文章の中で適した漢字を選んで書くことができるような力をつけていきます。

どの領域においても平均正答率は府や全国を上回る(算数)

**全体的な状況**  
本校の平均正答率は、府や全国を大きく上回りました。領域に関わらず、全国の平均正答率を上回っています。減法の計算の仕方についてまとめたことをもとに、除法の仕方についてまとめるなどどのようにするかを書くという計算の方を解釈して適用したり、発展的に考察したりする問題で、「記述式」の問題だけが非常に正答率が高かったです。他にも示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を言葉や数を用いてきじつづけるかどうかを見る問題も正答率が高かったです。

**課題**  
「記述式」の問題では、全国の正答率を大きく上回ってはいますが、正答数が受験数の半数の問題も見られました。「書く」活動では、算数のみならず他の教科においても十分に書く活動がありますが、十分であるとは言えないかもしれません。言語活動の充実に関心を入れたと考えています。

**成果**  
4年生からの少数習熟度別指導を積み上げにより成果があがったと考えられます。全14問のうち9問以上正解した児童は府、全国よりも多く、8問以下の児童は全国よりも少ないです。全体的な学力向上と底上げが達成できたといえます。

**課題解決に向けた取組み**  
「記述式」の問題への対策として、説明する対象を明らかにして記述する学習を取り入れていきます。少数習熟度別指導を土台に、これまで同様の一貫した指導を継続していきます。

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」は非常に良好(国語)

**全体的な状況**  
本校の国語の平均正答率は、非常に良好な状況です。学習指導要領に示された「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」は府や全国の上回りました。ただ、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は府の正答率は上回ったものの全国の下回りました。今回「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は漢字を答える問題です。

**課題**  
漢字の「対象」「関心」という漢字を書き答える問題の正答率が悪く、府や全国の下回ってしまいました。とりわけ、「対象」という漢字を答える問題の正答率は16.7%で、全国と比べると、25.2%下回りました。ただ「限(らず)」という漢字を答える問題の正答率は、77.8%と高く、府や全国の上回ったので、全体として、漢字においては全国の上回ったものの、府の上回った結果となりました。また、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」という領域においても、課題がみられました。例として「書くこと」に関して「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことができるかどうかをみる」問題を取り上げてみます。問題文に登場する高橋さんが、なくなりつつある公衆電話のことを調査しました。調査をしていく中で、いろいろなことに気づきました。(1)「けいたい電話が使えない時

【学習状況調査】

状況が良好な主な項目	本校	府	全国
先生は、あなたのように認めてくれている	94.6	85.1	86.1
人が困っているときは、進んで助けている	97.3	86.4	87.9
いじめはどんな理由があってもいけない(※「当てはまる」のみ)	97.3	84.8	85.0

**全体的な状況**  
・全質問項目の8割以上で、肯定的な意見が府、全国を上回っています。

**成果**  
・基本的な生活習慣が身につけている児童が多いです。  
・自己肯定感が高く、将来の夢や希望、役に立つ人間になりたいと思う児童が多いです。  
・地域や社会に関心をもって、地域行事に積極的に参加しています。  
・学習は社会に出たときに役に立つと考え、積極的に授業に取り組んでいる姿が見られます。

○保護者のみなさんへ(全体を通じて)

「児童質問紙」より、「学校は楽しい」と感じている児童が多く、先生は「分かるまで教えてくれる」「よいところを認めてくれている」など先生との信頼関係も良好なようです。学習に対しても、問題意識をもって積極的に取り組んでいる姿がうかがえます。そういった学習への下地となる基本的な生活習慣(「朝食」「就寝、起床」など)や自己肯定感(「よいところがある」「失敗を恐れぬ」など)が、各家庭において(「お家の人と話をする」)日々の生活を通して保障されていることが大きな要因となっていると考えられます。「日頃からの、困っている人への目の向け方や将来の展望、今の学習への将来への意味づけなど、ご家庭において心がけられている教育の賜物が、この全国学力学習状況調査の結果(正答率の高さ、学習意欲の高さ)に表れているのではないかと考えられます。今後とも学校、家庭、地域で連携して子どもたちの健やかな成長を見守っていきたく思いますので、変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

課題を残した主な項目	本校	府	全国
ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある	91.9	94.9	95.2
話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりする	70.2	71.2	74.1
授業で学んだことをほかの学習に生かす	78.3	78.7	82.8

**課題解決に向けた取組み**  
・「ものごとを…」の反面、「みんなで話し合ったことに協力してうれしかったこと」は、肯定的意見がかなり高くなっています。うれしいという感情だけで終わらせず、個人個人の振り返りなどで自信をもたせて達成感につなげていく必要があります。学校行事や学年、学級の取組みを通じて、達成感や喜びを持って取り組んでいきます。  
・他の質問での「話し合い」に関する意欲は高いのですが、その活動を通じて、どのように深めたり広げたりするかが課題です。知識をつなげて「生きて働く」とし、授業で学んだ事を、さらに発展させてより深く広い学びにつなげていきます。  
・国語、算数で学んだ事を生活に活用しようという意欲は高いですが、他の学習に生かすということには課題がありました。他教科との横断的な学習などを取り入れ、様々な教科が関連していることを実感できるように取り組みます。